



板橋本院 土地ものがたり

櫻園通信 53. 平成 31 年 3 月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター
稲松孝思 宮本孝一

旧養育院職員であった故金山栄治さんのご遺族から、**養育院建築史**と関連資料、そして**板橋本院土地ものがたり**と題した手記がセンターに寄贈されました。形見品の散逸を恐れ、保存してもらえないかとお持ちくださいました。

金山氏は大正 2 年のお生まれで、長く養育院関連施設に勤務し、課長職で定年を迎えました。

板橋本院土地ものがたりは、手書きの手記を糸で綴じた小冊子です。手記の終半に「昭和四十五年吉春稿」という記載があります。

養育院の勤務を終えて帰る途中の金山氏が「**養育院は渋沢さんの銅像をおろして、宮本さんの銅像をあげるべきだ**」と語る老人に出会う場面から話が始まります。

宮本さんとは誰なのか？板橋の養育院とどんな関係のあった人物なのか？「渋沢銅像をおろせ」という老人は何者なのか？

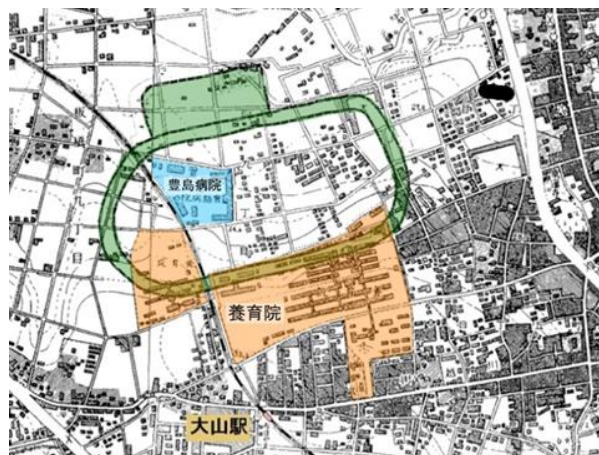
渋沢栄一を尊敬してやまない金山氏はたいへん驚き、その老人の意見に立腹します。

そして、養育院本院の経緯をあらためて調べることにしました。

大塚にあった養育院本院が関東大震災で被災し、板橋競馬場があった広大な荒地が移転先に選ばれると、地元の多くの地主が反対運動を始めました。

東京府議会議長花井源兵衛氏や**板橋町長宮本知遠氏**の支援を頼って地主の説得が進められましたが、用地獲得は非常に困難な道りでした。金山氏はこの手記に当時の事情を綴っています。

地主と養育院・東京市の間立たされた宮本町長自身の所有地も、養育院の入口を川越街道に面して作る必要から、養育院の用地計画に含まれてしまっていました。



手記の後半では、養育院の移転から、大空襲、戦後の土地計画、養育院立ち退き問題を経て、手記執筆当時に至る経緯が整理されています。

大震災後で被災した養育院の移転（大正時代）も戦後の事業復興も、地元との摩擦の中での大変な難産だったことを、この手記から知ることができます。

その難産の渦中で養育院の事業再開・復興の道を切り開いた人たちの中に **2人の宮本さん**がいたことを金山氏は明らかにしています。初代宮本知遠氏（板橋町長）と二代目宮本知遠氏（戦後の板橋区議）です。2人は親子です。

かつて老人が主張した「養育院の恩人は宮本さんだ」とは、おそらくこのことだったのでしょう。



金山氏「板橋本院土地ものがたり」をスキャンして、再製本しました。養育院・渋沢記念コーナーに置きますので、ぜひ手にとってご覧ください。

貸出・持ち出しはできません。コーナーでご覧ください。



板橋本院土地ものがたりと併せてご寄贈いただいた**養育院建築史**は、手書きの文章と写真や図面のコピーが綴られた、厚さ4cmほどの冊子です。

大塚本院、板橋分院・本院、千川用水暗渠化、巣鴨分院、石神井学園、安房分院、井の頭学校、長浦分院、栃木分院、八街学園、伊豆山老人ホーム、東村山分院、練馬分院、東京都むさしの園、付属病院などの施設の情報が、建築面を中心に詳細にまとめられています。

定年後の昭和40年ごろに、養育院百年誌（一番ヶ瀬康子編纂）の基礎資料として作成した冊子とのことです。